

**「第2回 高松塚周辺地区再整備方針検討委員会」議事要旨**

【日時】 令和5年7月6日（木）10:00～12:00

【場所】 国営飛鳥歴史公園館 2階視聴覚室、オンライン会議室の併用

【参加者】（委員） 小野委員長、井原委員、里中委員、染川委員、

武田委員、田中委員、筒井委員

（協力委員） 明日香村 森川村長

公益財団法人古都飛鳥保存財団 田中常務理事

奈良県地域デザイン推進局 中村次長(代理出席)

文化庁文化資源活用課 篠田課長

国土交通省近畿地方整備局建政部 曾根公園調整官(代理出席)

※ 下線：webでの出席

**【議事事項】****事務局より議事の説明**

1. 第1回委員会の意見概要と対応について
2. 本委員会での検討事項について
3. 国営飛鳥歴史公園（高松塚周辺地区）の現状と課題について
4. 高松塚周辺地区の再整備方針（案）について

**【再整備方針案全般に係るご意見】****（1）高松塚周辺地区再整備方針の検討に求められる観点について**

- 再整備方針の公表に際しては、飛び地で存在する飛鳥歴史公園 5 地区の中での高松塚周辺地区の位置づけ、および飛鳥という地域の中での公園の位置づけを明示するべき。
- 検討内容が具体的内容に偏っているが、この公園の意義についても検討すべき。飛鳥歴史公園なので、歴史の理解を深めることを公園の意義として据えてはどうか。
- 「再整備にあたってのポイント」について、屋内の展示施設と古墳を巡るその再整備のポイントや、地域景観の保全のポイントについて既に当初基本計画で具体的に色々な観点から書かれていると思われるので、見直しを行うべき。その他、明日香村の景観計画にまとめられている当該地域の景観特性を踏まえた検討が必要。
- 「高松塚周辺地区の再整備にあたってのポイント」を整理するのであれば、基本的な理念にも立ち返り再整理する必要がある。

## (2) 高松塚周辺地区再整備方針の内容について

- 視点②として「利便性、安全性等の向上」を挙げているが、より踏み込んで「歴史的風土を感じる魅力性の向上」等の表現としてはどうか。
- 高松塚周辺地区西側エリア内の施設をどう収めていくのかが重要な課題である。社会的ニーズに応じて変化しなくてはならない要素がある反面、この場所の役割の核である遺跡文化財の保存鑑賞の部分まで大きく変化してしまう可能性がある。この問題は公園内の遺跡そのものの見せ方ともセットで考える必要がある。
- 遺跡の鑑賞と、遺跡からの眺望の2要素が整理されていない。また、視点②は「利便性・安全性の向上、眺望景観等の確保」となっており、趣旨がぼやけている。2ページに整理した「高松塚周辺地区の再整備にあたってのポイント」について、それぞれのポイントにどのように配慮するのが要点を整理、具体的に書き込んだ方が整備や設計に役立つと思う。
- 眺望や利便性だけにとらわれると、単なる良い散歩コースのある公園になってしまう。この土地に求められるのは、歴史的意義を感じる場としての整備であり、歴史的な重要性の表現と、眺望や利便性について、予算、人材、時間には限りがあるなかで、優先度をつけて取り組むべき。壁画現物を見せること以上に、壁画にどのような意味があるかを生身の体験のように伝えることが重要。見るだけで理解できる史跡等は多くないため、ストーリー付けることで人が生きた意味合いまで感じてもらう見せ方が必要になる。
- 歴史的な意義を一般の人に自分ごととして理解してもらうことはすごく難しい。利用者がどうしたら興味をもつ施設になるのかならないのかは、一般の人に聞かないと想定だけでは難しい。利用者から求められる施設とするために、一般の人から意見を伺うべきではないか。
- （協力委員）村としては、中尾山古墳、牽牛子塚古墳、天武・持統天皇陵が互いに見られる位置に存在していたのではないかと考えている。古墳そのものを視点場と考えるべきではないか。
- 飛鳥の歴史をどのように体感してもらうか、という部分の話が欠けているとの意見が多い。「遺跡・文化財の保存」、「遺跡・文化財の鑑賞」について、3つの視点につながっていないように見える。また「遺跡・文化財の鑑賞」について、壁画についてのみ触れているが、核心は古墳だと考える。古墳がクライマックスとなる展示計画を立てられると良い。

## 【資料修正に係るご意見】

- 2 ページについて、「史跡と調和のとれた地域景観」という表現は、「歴史的風土と調和のとれた～」等広く構えたほうが良いと思う。また、植生管理だけでなく、施設管理についても記載してはどうか。
- 2 ページについて、「眺望・散策」として、来園者の安全性や利便性についての記載があるが、「体験の魅力の質の向上」等、より積極的な表現に変えてはどうか。バリアフリー対応だけでは物足りないのではないか。
- 2 ページ「眺望・散策」の 3 点目、高松塚周辺地区内の東西のエリアの連続性についての記載があるが、より視野を広げて、周辺地域への周遊拠点としても検討する必要があると思った。
- 3 ページ視点②の「眺望景観の保全を図る」については、「眺望、景観の保全を図ることによって、利便性、安全性、魅力性の向上を図る」等の文章構造としてはどうか。
- 3 ページ視点③として「持続可能な運営管理に向けた取り組みを推進すること」としているが、その効果についても記載してはどうか。記載例として、「人と人との触れ合いを通じて、歴史性、文化性を学ぶ」等が考えられる。全体を通して、何をすることで、どんな機能を向上させるか、という視点で整理できると良い。
- （協力委員） 5 ページについて、明日香村全体で考えると、やはり飛鳥駅が本当の意味でのゲートの役割を持つことになる。国営公園の枠組みを超えた話になるため議論に限界があるとは思いますが、是非意識した上で検討を進めてほしい。
- 6 ページの展示ストーリーについて、国交省と文化庁で別々に進めることで、必要な部分がどちらの展示にも含まれないような事態を危惧する。まず飛鳥歴史公園のガイダンスエリアに入り、その次に高松塚の展示を見て、実際の壁画を見て、最後に飛鳥地域の魅力のインフォメーションエリアがあって、飛鳥周遊へ繋げる、という流れの方が適切ではないか。文化庁との「連携」にとどまらず、「一体的に相乗効果を発揮」する勢いで検討を進めてほしい。
- （協力委員） 6 ページについて、高松塚壁画館と新たな展示施設の機能が重なる懸念がある。所管に関係なく、どの施設にどのような機能を持たせるかについて調整する必要がある。
- （協力委員） 7 ページについて、駐車場の規模について、現状維持だと不十分なのではないか。
- 社会情勢やニーズについては今後も変わっていくことを前提に、社会情勢やニーズ、技術の変化に合わせて柔軟に対応していくこととすべきではないか。

(以上)